

県北みちもり発足～シンポジウム開催

道の日である8月10日、道の日のイベントとして延岡市のカルチャープラザのべおかにて『道守シンポジウムinのべおか』が、道守みやざき会議主催のもと開催されました。道守みやざき会議は発足から4年目を向かえ、ちくちくと道守の輪を広げています。道は日々の暮らしには欠かせないものであり、宮崎県北地域では、『郷土“みやざき”を愛し、慈しみ、少しでも地域が良くなれば』という想いから道の清掃や道端の植栽の手入れなどに日々汗をかき頑張っておられる“潜在的な道守”の方々が昔から多数いらっしゃいます。そこで、多くの道守さんたちと“活動の喜びを分かち合い、さらに道守の輪を広げる”ために、道守みやざき会議北部ブロック（通称『県北みちもり』）を発足いたしました。『県北みちもり』として初年度にあたる今年度は、宮崎県北地域で道に関する活動をされている方々のうち約150名もの方々が新たに“道守さん”となりました。



8月10日 道守シンポジウムinのべおか

県北みちもり発足

県北みちもりは、昨年9月に日南市を中心に発足した南部ブロックに続き、2箇所目のブロック組織。今年6月から会員募集をはじめ、「道の駅北浦」などの4つの道の駅と美郷町南郷区や諸塚村の商工会員など新たに158名の入会とともに発足式を迎えました。

発足式では参加した団体や機関の代表者などが活動方針や抱負を語り合い“道を守る心”の啓発が行われました。



県北みちもりの発足式

代表あいさつ

本日、「道守みやざき会議・北部ブロック（通称：県北みちもり）」の発足会が行われ中央ブロック、南部ブロックにつづき、「県北みちもり」を発足することができました。道には大きい道から小さい道まで、どれ一つとっても、日々の暮らしにはかかせないものです。その「道」を活用して、県内におけるさまざまな道守の方々が、私たちの郷土「みやざき」を愛し、慈しみ、少しでも地域が良くなればという想いから日々汗をかき頑張っておられます。県北みちもりの代表としてこれからもたくさんの道守さんたちと活動の喜びを分かち合い、輪を広げていきたいと思っております。



県北みちもり代表
の
はつみ
矢野 初美

夕刊デイリー新聞2007.8.16掲載



宮崎日日新聞2007.8.24掲載

シンポジウム開催

14:00～ 道守体験発表



下赤小学校の生徒さん



三川内小学校の生徒さん

14:20～ あいさつ



道守みやざき会議代表世話人
ひだか あきら
日高 晃氏

14:30～ 基調講演



道守九州会議副代表世話人
もり まさひこ
森 将彦氏

16:20～ フィナーレを飾る餅撒き



15:20～ パネルディスカッション 「道守が育てる心豊かな地域づくり」



● コーディネーター：根岸 裕孝氏ねぎし ひろたか(宮崎大学教育文化学部 准教授)

道は物を運び、人が出逢い、そこに地域の個性が反映され人々の生活がある。道を守るとは道の本来の機能を振り返りながら行政と市民が協働で生活を守るパートナーシップの大切さにある。今日のシンポジウムのテーマである「道守が育てる心豊かな地域づくり」。心の豊かさとは自分らしさや地域らしさをつくることであり。ボランティア活動を通して自分が輝き、社会が輝いていくことが自分らしさに、そして心豊かな地域づくりにつながっていくのではないかと思います。



● パネラー：村田 宮子氏むらた みやこ(道守みやざき会議北部ブロック世話人)

県北の道守活動は拡大し、いまやシーニックバイウェイ蒲江・北浦大漁海道にまでつながりました。今後も県北みちもりとしてたくさんの道守さんに協力していただき活動の輪を拡げていきたいと思っています。子供たちの発表にもありましたが、道の目の前にゴミが落ちていたら拾うという感覚を私たちは忘れていて。まずは大人が子供たちの目の前でゴミを拾うことが大事。

家の前の道は小さいけど、そのきれいな道は、やがて大きな道につながり、そしてきれいな街に変わっていく。より多くのお客さんが来てくれるよう気持ちの良い道づくりを目指していきたい。



● パネラー：福永 栄子氏ふくなが えいこ(ローカルエリア・ネットワーク「時の旅」情報誌「みちくさ」主宰)

私は8年ほど前にこの宮崎へ1ターナー者としてやってきました。私が九州を好きになったのは、この九州には日本の風景があるからです。ただ景観が美しいだけではなく住んでいる人々の生活の営みが見事に調和していると感じます。県北には北浦など”浦”のつく地名が多くありますが、浦ごとにそれぞれ山里の文化が残っています。北川町黒内地区の棚田をはじめ、過疎化した限界集落の地域資源を守る道守人の協力体制が必要です。生活の一部として捕られていた道守活動が、県北みちもりの発足により、意識をもって地域を守ってゆくようになる。今日の日をその第1歩と感じ大変嬉しく思います。



● パネラー：谷越 衣久子氏(道守みやざき会議南部ブロック)

昨年の9月に道守みやざき会議南部ブロックを発足し、道守の日一斉活動や花で地域を結ぶ一斉活動を行いました。その活動を通して普段あまり話しをしたことのない地域の人々に新しいコミュニティが生まれています。また、小さなお子さんに移植ごてを持たせ花植えの手ほどきをしている様子を見ると、世代間の交流も生まれてきているのだと感じ大変嬉しく思います。また、道守活動には水の供給や道具の提供、植栽のノウハウの提供などさまざまな団体の連携、支援があって私たちの活動は続けることができます。民間と行政の枠を超えて参加者ひとりひとりがボランティアとして、また一市民として活動に取り組み、更に道守の輪は広がっていくのだと思います。



● コメンテーター：森 将彦氏もり まさひこ(道守九州会議 副代表世話人)

九州の中でも民間同士の連携が強く、行政も含めたバックアップ体制や、組織づくりで成功しているのは九州では宮崎が一番である。昨年の9月に発足された南部ブロックに続き、県北ブロックが発足され、道守の参加者をはじめ、国や県、市町村の方々が一緒になって連携し、仲間同士の信頼を深めている報告を聞いて「宮崎はここまで来ているのか。」と感激しました。

「ひとりひとりが自分のできることは自分でやる」このことは活動の原点ですが、一人だけの力、民間だけの力だけでは難しい面もあります。行政の人たちがその人たちの気持ちになって顔を向けることで信頼関係が生まれ、地域への元気の源へとつながります。

東国原宮崎県知事からのメッセージ

民官一体となった道づくり地域づくりへ

都合によりビデオレターでの登場となってしまいましたが、シンポジウム後半に東国原宮崎県知事からの応援メッセージが上映されました。知事は「マラソンで県内の道を走らせてもらっているが、宮崎の道はゴミがなく、草花の多い自然豊かな道である。地域のそれぞれの小さな活動が輪になって大きくなり、やがて民から官へ、民主導による道づくりが地域づくりへ、そして宮崎県を守っていくこととなる。」と道守さんへのエールを送っていただきました。



東国原宮崎県知事からのビデオレター

ビデオ映像はこちら 5.89MB